

学校教育目標	『未来を拓け』 ～ 自己の創造 ・ 生きる自信 ～
目指す学校像	「授業」第一主義 「生徒」至上主義 「地域」尊重主義

重点目標	1 基礎的・基本的な学習内容の指導を基にした、基礎学力の向上 2 生徒の豊かな心の育成と、生徒一人ひとりに寄り添った支援の推進 3 保護者・地域等とのコミュニケーションを基にした、コミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備と、健康で安心・安全な学校生活の推進 5 保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		学 校 運 営 協 議 会 に よ る 評 価								
年 度 目 標		年 度 評 価								
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	令和9年 月 日	
1	【現状】 ○令和7年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査では、前年度より上昇しているものの市の平均正答率と比べ、課題がある。 ○授業に関しては、落ち着いて取り組んでいる。しかし、基礎学力及び確かな学力の定着に結びついていない。 【課題】 ○令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語においては「話すこと・書くこと」、数学については「数と式、図形、関数、データの活用」に関する学習内容が課題である。 ○学習内容の基礎・基本の定着が課題である。 ○家庭学習の定着が課題である。	・学習内容の基礎・基本の定着 ・学習に対する達成感・成就感の経験	①TT・少人数指導を活用し、個に応じた指導を実施する。 ②既習事項の復習と終末での振り返りを各教科の授業でスタンダードなものとする。	①学校生活アンケート(生徒)の学習に関する質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。 ②学校生活アンケート(生徒)の家庭学習に関する質問で、肯定的な回答が60%以上となったか。						
2	【現状】 ○令和7年度学校生活アンケート(生徒)において、「いじめや差別をすることなく、思いやりの気持ちをもってみんなと協力し、学校生活を送っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、96%であった。 ○令和7年度学校生活アンケート(生徒)において、「先生方は悩みや相談に親身になって応じてくれていますか。」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、96%であった。 【課題】 ○生徒の豊かな心を育成するために、各授業や諸活動の内容を改善していかなければならない。 ○不登校生徒が前年度比で増加していることが課題である。	・生徒一人ひとりの細かな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・組織的な生徒指導・教育相談・特別支援教育の実施と生徒一人ひとりに寄り添った支援の実施	①特別の教科「道徳」の内容をさらに充実させ、お互いを思いやる気持ちのさらなる醸成を図る。 ②生徒が活躍する場面や生徒の成果物を積極的に発信したり掲示したりする。	①学校生活アンケート(生徒)の思いやりに関する質問で、「そう思う」の回答が97%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、思いやりに関する質問で、肯定的な回答が70%以上となったか。						
3	【現状】 ○「豊かな知(学力・判断)・豊かな心(挨拶・自他尊重)・豊かな体(健康・体力)・豊かな絆(地域・郷土)」で、地域を担える生徒を育成するために、具体的な活動の機会を生徒に提供している。 【課題】 ○生徒が活動には参加するものの主体性や創造性を育めない場面があり、エージェンシーの育成にまで至っていないことがある。	・生徒の姿を地域全体で共有する教育活動の展開 ・生徒の地域活動への参加及び地域人材を活用した教育活動の推進	①学校日より及びホームページやその他のツールを用いて、学校の様子を発信し、生徒が活躍する様子を地域や保護者と共有する。 ②学校行事・学校公開日の案内は紙面とともにデジタルも活用し、来校者の増加につなげる。	①学校評価に係るアンケート(保護者)で、「教育活動の積極的な公開を行っている」の質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、「目指す生徒像」に関する質問で、肯定的な回答が75%以上となったか。 ③学校評価に係るアンケート(保護者)で、「生徒の地域社会への貢献の促進、地域ぐるみの生徒の健全育成」の質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。 ④学校評価(教職員)で、「関係機関・保護者・地域の連携を強化し、生徒の健全育成」に関する質問で、肯定的な回答が95%以上となったか。						
4	【現状】 ○令和7年度学校生活アンケート(生徒)において、「安全に気を付けた学校生活をしていますか」、「健康に気を付けた学校生活をしていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合がそれぞれ96%と97%であった。 【課題】 ○登下校はもとより日常生活においても特に交通安全には注意しなければならない。	・生徒が落ち着いた生活を送ることができ環境整備の徹底。 ・教育環境・学習環境の整備及び、生徒の安全への意識の向上	①毎月の安全点検結果を管理職、安全担当、事務職員で共有し、必要に応じて迅速に対応する。 ②清掃活動の時間を確保して校内の美化に努め、落ち着いて学習することのできる環境を作る。	①学校生活アンケート(生徒)の「学校が楽しいですか」の質問で、「そう思う」の回答が95%以上となったか。 ②学校評価(教職員)で、「健康で安心・安全な学校生活の推進」の質問で、肯定的な回答が95%以上となったか。						
5	【現状】 ○ICT機器の活用を含め、指導方法を工夫・改善し、「魅力ある授業」を目指し、各種研修を通して指導力の向上に努めている。 ○服務に関する研修をあらゆる機会を捉えて行い、教職員の資質向上に努めている。 【課題】 ○ICT機器の効果的な活用については、教職員の利活用に差がある。 ○服務については、教職員に係る事故事例を活用し、より一層、一人ひとりの意識の向上に努めなければならない。 ○時間外在校等時間が多い教職員がおり、心身の健康面が心配される。	・信頼される教職員を目指した指導力向上研修 ・信頼される教職員を目指した、服務研修の実施及び教職員一人ひとりの意識改革の推進	①アクティブ・ラーニング的手法を用いるとともにICTを適切に活用することにより「魅力ある授業」を行う。 ②教職員一人ひとりが学習指導(指導方法)や生徒指導・教育相談(生徒・保護者対応)等について、校外での研修に積極的に参加する。	①学校生活アンケート(保護者)の「魅力ある授業」に関する質問で、肯定的な回答が65%以上となったか。 ②学校評価(教職員)で、「学習指導」及び「生徒指導」に関する質問で、肯定的な回答がともに90%以上となったか。 ③学校評価(教職員)で、「保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上」に関する質問で、肯定的な回答が95%以上となったか。 ④教職員の時間外在校等時間を月平均35時間以内とすることができたか。						

学校運営協議会による評価
 実施日 令和9年 月 日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等